貴重な薬草使う商品開発

安佐町飯室の集落で特産品化へ

㈳百人邑

就労継続A型事業所の㈳百人邑（安佐北区安佐町飯室2126、竹添覓二代表理事）は2月、同所の集落で栽培した薬草などを用いた浴湯剤「当帰湯」と、ハーブと薬草を練り込んだお香「薬草香」を相次ぎ開発し、本格的に販売を始めた。一般市場に出回らない高価な薬草を用いることで集落の特産品化を目指すほか、障害者の賃金アップなどにつなげる。

薬草は佐賀県の薬草研究所、呉緑化センターの指導、支援を受け、黒曜石の埋設などで土壌改良し、3年がかりで開発した。当帰湯は生薬としてさまざまな漢方薬に使われる一方、発芽率が3割以下と栽培が難しい。浴槽に入れて湯張りをするだけで肌荒れ、肩凝り、腰痛、冷え性、しもやけなどに良いとされ、血圧を下げる効果もあるという。使用後に乾燥させると複数回使える。6包入りで価格2000円（税込）。

薬草香は京都の老舗お香店「徳泉堂」の指導を受けた。ほのかなリンゴの香りがするローマンカモミールと、心安らぐ柴胡の甘い香りが気分をリラックスさせ、ストレスを発散させる。寝付きの悪い時や就寝前の利用も想定。12個入りで価格2000円（税込）。オンラインショップ（https://www.kaitekiteian.com/）などで販売。

同法人は就労事業所「つなげよう。農ある暮らしとICT。」を2016年10月に開設した。現在、農地4000㎡を整備するほか、ホームページ作成、運営なども請け負う。就労者は11人。仕事の重圧や人間関係などで精神障害を患った人に自然や農作業を通じてリフレッシュしてもらい、一般企業への職場復帰なども後押しする。

広島経済レポート
1951年創刊　おかげさまで今春、設立70周年を迎えます
3月12日号
毎週木曜日発行
月間購読料2,090円（1,900円〈送料込〉＋税）

傍を楽にする

ぎゆうの言葉

竹添 覓二氏（60歳）
㈳百人邑代表理事

安佐北区安佐町飯室で就労継続支援A型多機能事業所「つなげよう。農ある暮らしとICT。」を運営。管理、競争社会で生きることにつまずいてしまった障害者を雇用し、地域の農家から指導していただきながら、農業体験訓練を実施しています。自然と触れ合う農業を通じて心身ともにリフレッシュし、既存のITスキルも生かした「半農×半ICT」の新しい形で、雇用機会・現場復帰をサポート。地域ぐるみで障害を持つ若者を支援し、地域活性化にもつなげていきたい。

当法人は「働くとは、傍を楽にし、喜びを共にする」を理念にしています。この言葉は当法人の理事を務める、ひまわりプランの蔵田和樹社長から頂いた言葉。自分のためではなく、周囲の人を楽にする、喜ばせるために仕事をすれば、働くことの本質が見つかる。人のために行動することは素晴らしく、誰かが喜んでいる笑顔を想像すると、ますますモチベーションが上がってくる。当事業所でもこうした働き方ができている就労者は輝いています。よく採用面接で、志望動機や自己PRなどのテクニックが紹介されていますが、傍を楽にする考え方を持っている人はきっとどこの会社でも通用するはず。今後も誰かのために自分を生かすことで、喜びと幸せに満ちあふれる仕事をしたい。